

## ま え が き

わが国の平炉製鋼技術は近年、さらに目覚ましい発展をとげ、その作業成績において、かつまた品質において、つとに世界に誇る水準に達しております。これは一重に種々御指導をいただいた先輩諸氏ならびに作業にまた研究に専心された技術者の方々の成果であり、深甚の敬意を表する次第であります。

当製鋼部会では、過去2回にわたり部会の研究結果を集大成して、各位の御参考に資しておりますが、今回は昭和33年11月以降の報告につき取りまとめを行ないました。この期間においては特に注目すべきいくつかの点があります。

第一は、貿易自由化の問題であります。これはあくまでも拒否し得ない、また拒否してはならない課題であり、わが国のあらゆる産業発展の基盤に連なる鉄鋼技術者として、一層の努力研鑽を期さなければなりません。本書にまとめられている諸報告もまた、各社の努力がその方向に強く向っていることを明らかに示しております。

純酸素転炉法の発展も注目すべきところであります。原料、酸素の利用法など条件の異なる点多々ありますが、当部会の報告にも数多く発表されているように、われわれは新しいこの技術の一層の向上を願い、たがいに学びあい手を取りあつてゆきたいと思ひます。

このような背景のもとに、われわれは当面せる諸問題すなわち、鋼塊の欠陥防止、酸素の有効利用、耐火物などに研究討議を続け、ここにふたたび部会報告書を発刊することと致しました。今後、本資料を参考に、さらに技術の開発進歩に努められ、わが国の平炉製鋼技術の向上に役立てていただければ、望外の喜びとするところであります。なお部会におきましては昭和36年以来数次にわたり、共通の議題について日本学術振興会製鋼第19委員会と共同研究を行なつておりますが、この成果もまた各位の御参考に資すること大なるものがあると存じます。

部会設立以来、長年にわたつて御指導を賜つた故吉川晴十博士、小林佐三郎元部会長、および蜂谷茂雄前部会長ならびに共同研究に多大の御協力をいただいた沢村宏製鋼第19委員長に対し深甚なる謝意を表するとともに、資料発表を許可された各会社委員諸氏ならびに本報告書の編集にあたり、絶大なる御甚力をいただいた日本鉄鋼連盟、日本鉄鋼協会、および各社の在京幹事の方々に厚く御礼申し上げる次第であります。

昭和39年1月

日本鉄鋼協会共同研究会  
製鋼部会長

武 田 喜 三